

## 令和4年度 第1回八雲町総合開発委員会議事録（要旨）

### 【開催日時・場所】

令和4年6月29日（水）午後1時30分～午後3時00分

八雲町役場議員控室

### 【出席者】

委員：大野 尚司、近藤 安幸、稲見 敦子、本田 貴臣、舟田 進一、梶田 孝女、山縣 光徳、久保 扶佐子、鎌田 和弘、能代 常男、浅沼 真、西田 浩人、阿部 政邦、上田 倫央、小笠原 英毅、青沼 千鶴、長谷部 修、佐藤 馨、東間 和浩（19名）

町：岩村町長、成田副町長、土井教育長、川崎財務課長、竹内総合病院事務長、加藤住民生活課長、田村サーモン推進室長、川口政策推進課長、上野政策推進課長補佐、右門政策調整係長、多田企画係長、長谷川企画係主任（12名）

傍聴者：なし

### 【内容】

#### 1 開会

#### 2 町長あいさつ

令和4年度第1回八雲町総合開発委員会に大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。今年の冬も雲石峠が雪崩で通行止めになったが、今回は大雨の影響で通行止めとなっている。また、鮎川でも通行止めということで、函館開発建設部が調査しているが、すぐには通れないと聞いている。我々も迂回して熊石に行かなければならないという状況。気象庁では、夕方から雨が降ってくるという予報もあり、落部や八雲の川でも増水しているので、漁業被害が無いように祈っている。今日は、総合開発委員会ということで、皆さんの意見を聞きながら進めていきたい。

#### 3 会長あいさつ

日中何かとお忙しい中、今日の委員会にお集まりいただき、ありがとうございます。コロナも大分少なくなってきたが、これから夏休みやお盆で人の出入りが多くなってくる。ワクチンを打っているからと安心しないで、十分感染予防については注意していただきたい。今日の会議は先に事務局から送付している資料に基づいて進めていくが、委員の皆様には忌憚りの無い意見をお願いしたい。

#### 4 協議事項

##### （1）第2期八雲町総合計画の見直しについて

町長から会長へ諮問書を手交。その後、多田企画係長から資料に基づいて説明した後、質疑応答。

【小笠原委員】 この総合開発委員会の議事録は残してあるか。

【川口政策推進課長】 残している。

【小笠原委員】 議事録が発言の意図と違う内容にならないように、発言内容を確認してから確定していただきたい。

【多田企画係長】 今までは事務局で作成した議事録を欠席した委員には送っていたが、出席した委員には送っていなかった。今回の会議からは、一旦議事録の案を送り、それに修正を加えて、そのあとで全委員に送り、町ホームページに掲載するというにしたい。

## 5 報告事項

### (1) ウクライナ避難民受入事業について

右門政策調整係長から資料に基づいて説明後、質疑応答。

【佐藤委員】 ロシアのウクライナへの軍事侵攻について、本当に私はショックだった。八雲町がいち早く手を挙げたのをニュースで見て素晴らしいなと思っている。八雲町の具体的な支援内容の中で、相談員 3 名とあるが、これは既にお願ひしてそういう体制ができているか。また、実際に八雲町に避難民は来ているか。

【右門政策調整係長】 今、国内にはウクライナ避難民が 1420 名おり、そのうち北海道には 18 名となっている。この仕組みとしては、国にウクライナ避難民が申請をして、適応する自治体に申し込むという形になっている。八雲町には今は来ていない。避難民が教育や子育て支援などを必要とする場合も想定されるので、詳細を各部署と協議する予定で、その中で支援体制を確認して相談対応職員の採用時期、業務内容を精査していく。

【川口政策推進課長】 ちなみに、予算は既に確保はしているので、いつでも避難民の対応は可能。

【佐藤委員】 相談対応職員の 3 名は既にお願ひしているか。

【川口政策推進課長】 避難民が来ないことも想定されるので、避難民が来る見通しが立った段階で相談対応職員を募集する予定。

### (2) 北海道二海サーモンプロジェクトについて

田村サーモン推進室長から資料に基づいて説明した後、質疑応答。

【佐藤委員】 この資料から、本当にきめ細かなデータを取ってこの事業に取り組んでいることが良く分かった。資料の中で、サケの不漁や養殖ホタテの被害について記載があるが、原因と今後の見通しを教えていただきたい。また、二海サーモンが私たちの食卓になかなか上がらないが、今後はどうなっていくか。

【岩村町長】 サケやホタテの関係について、八雲町漁協の山縣組合長から発言いただきたい。

【山縣委員（八雲町漁協組合長）】 サケが獲れなくなった原因は、水温、エサ不足、放流する稚魚の大きさ等色々な情報があるが、はっきりしたことは指導所や試験場でも分からない。水産試験場

からは、これまでのようなサケの豊漁は自然のことなので何年かに1回はあるだろうけども、少なくなるだろうと言われている。ホタテに関しては、町からも力を借りて、まだ完全に戻ってはいないが、へい死や稚貝の生育不良からは幾分か上向き傾向にあると思っている。

【佐藤委員】 サケの山漬けはどうか。

【山縣委員】 山漬けはつくらない予定。

【岩村町長】 落部はどうか。

【鎌田委員（落部漁協専務）】 漁模様ではつくる。

【田村サーモン推進室長】 二海サーモンを地元で食べられないという話は私も聞いている。メディアにこれだけ載って、引き合いも多く、町民を蔑ろにしているわけではない。今、八雲町内のスーパー3店舗を中心に声をかけていて、量が限られているので、量が続く限りになるが、そこで販売できるように交渉しているところ。ただ、浜値を上げると末端価格も上がり、高い高いと言われる。逆に浜値を下げると消費者がリーズナブルに買えるようになるが、そこを両立することはなかなか難しいところがあり、そこも考慮して検討しなければならないと考えている。

【岩村町長】 円安等々で今年が特に値段が跳ね上がった。漁業者の収入になるので、我々が勝手に下げるわけにはいかない。来年は八雲町内のお寿司屋さんなどと組んで、町民に格安でサーモンフェアを計画している。来年の5～6月には町内一斉に町民の皆様は格安で提供したい。

【小笠原委員】 熊石側の人口減少や雇用を回復したいということだが、それに向けた具体的な目標値はあるか。例えば、現状の4000尾だったら何人を雇用できるとか、あるいは、事業として成り立つには10000尾いて、3人くらい雇用が増えてとか、そういう具体的な話はあるか。

【田村サーモン推進室長】 難しいところがあり、単純に何千尾になったら何人雇うというのはわかには分からない。サーモンというのは市況に左右されやすい魚種で、今後2年くらいかけて緻密に収支計算をしていくが、現段階で明確に回答できない。今後ここで生まれ育った人たちが地元にて就職したい、あるいは地元から一旦外に出て学んで戻ってきた時に働く場を少しでも用意できればと考えている。

【小笠原委員】 それでも一定の目安があると良いと思う。

【岩村町長】 今、中間養殖として22000尾の稚魚を入れたが、現在でも3～4名働いている。先程言った海面養殖については漁業者が増えていくということ。熊石地域に加工場の計画も考えており、計画を進めていけば数名程度雇用が生まれる。更に、魚の運搬業務も出てくる。これから色々計画を作っていくということでご理解いただきたい。

【小笠原委員】 そういった説明も資料に入れると理解が増えると思う。現場で作業している方のモチベーションはどうか。

【鎌田委員（落部漁協専務）】 それについては私の方から説明する。我々落部漁協の青年部が3年前から携わらせていただいている。ホタテが不振だったということもあり、青年部としては自分の生活を守っていききたいという思いで、町長からサーモン養殖を提案してもらって実施した。現場の若い人たちはこの事業に携わって非常に団結も出たし、食品を生産するという思いも強く持つ

ている。本当は、続けて行きたいという意向はあるが、日本海側との水温の差、それによる成長の差があり、熊石地区のような漁港の空きスペースが無いということもあって、なかなか規模拡大が難しい。一旦、規模拡大など精査する上で次年度以降検討するが、非常に浜の若い者は活気づいている。また、全道に先駆けて八雲町が第1弾として実施した部分が多い。そういう意味で、八雲町や漁業に対するイメージもアップしているし、町がプロモーションしてメディアに出たことで札幌方面から来年の春に落部漁協に就職したいという声も来ています。直接的な効果だけでなく波及的な効果もあると思っている。

**【小笠原委員】** 今の現場の声も是非資料に入れていただければ、事業に意味があることが伝わる。

**【舟田委員】** 27ページには道内各地でサーモン養殖が実施されてきているということが載っているが、稚魚を供給する場所はあるか。

**【田村サーモン推進室長】** 八雲町から供給するという意味か。

**【舟田委員】** 八雲町が養殖する時に稚魚をどこから買ってきているか。

**【田村サーモン推進室長】** 昨年度までは青森県の事業者から大体600～700gの幼魚を持ってきて、落部、熊石の海面の養殖施設に入れている。4月1日から八雲町がサーモンの種苗生産施設の譲渡を受けて、そこで稚魚を育て始めているが、その稚魚は八雲町の養殖に提供するほか、余った稚魚は近隣で取り組みをやっている、あるいはやりたいという所に適切な価格で条件が合えば販売する。種苗の生産コストを下げることによって、事業収支も改善していくと考えている。

**【舟田委員】** 農業では種を制するものが世界を制すると言われている。最終的に養殖して大きく育てるのも確かにビジネスだが、これだけ養殖がスタートしていると稚魚の供給という部分を見ると、安定した収入が得られるのではないかと思う。稚魚を各漁協に供給して、来たものを加工できれば雇用と色々な面でプラスになると思う。聞いていたらまだまだ伸びしろがあるのかなと思った。

**【田村サーモン推進室長】** 補足で、実は良いサーモンとして生産できるかどうかは、育て方もあるが、サーモンの血統、スーパー卵から育てた方が良いと言われている。国内にはそういう卵がなくて、海外から持ってきている状況。パテントという特許権のようなものがあって、卵を持ってきて複製して卵から再生産するのは認められていない。それをやると非常に高額な違約金を支払わなければならない。ただ、世界的な動きとしてパテントフリーという、そういったものを取っ払って無料にするという動きが徐々に出てくる。そういった世界の動きを注意深く見守りながら、今後さらに検討していきたい。

**【本田委員】** 先ほど町長から来年フェアを実施して各飲食店にという話もあったが、今後の二海サーモンのマーケティングやブランディングをどう考えているかお聞かせ願いたい。我々飲食店でも二海サーモンを実際に使用したいという声はちらほら出ている。浜値のことも話が出たが、システムとして難しいのは分かっているが、観光物産協会としても交流人口を増やしていこうというなかで、何か取り組みができればと考えている。

**【岩村町長】** 来春に商工会、観光物産協会を巻き込みながらやっていきたい。我々も気づかない点も

あるので、来年度の予算であれば秋までに取り組み案をいただきたい。

**【本田委員】** スポットではなくて継続的にということか。

**【岩村町長】** 継続的にやっていくために、どこで販売するかということも。今は一般販売しかしていないが、ある飲食店からは一般販売で買ったのでは合わないという話も聞いている。一般販売とは別に、飲食店の人たちに加工して売るとか、熊石側からどうやって出荷するかということも含めて、是非サーモン推進室に相談に来ていただきたい。

**【阿部委員】** サーモンの養殖に関しては、明るい希望のように話が聞こえてくるが、旧北海道サケマスふ化場熊石支場では施設が老朽化していることと、ニジマスの育成の経験が無いということが懸念される。八雲で育てた稚魚がいつ提供できるかということが明らかにされなければ、八雲の22000尾の余った分を待たないで、青森の事業者に注文するというのも懸念される。私自身も新しい事業に対する期待感もあるが、現実の問題としてそうした懸念に何らかのケアがされているかお聞きしたい。

**【岩村町長】** ふ化事業は試験ということで進めており、採算性はこれから吟味していく。22000尾の稚魚は、想定では17000～18000尾が残ると考えている。八雲町は青森県の事業者から幼魚を購入しているが、青森の事業者が他所に売るということは一切ない。青森、岩手、福島から買ってきても採算が合わないので、これから我々が作る幼魚を買うことになるだろうと考えている。大変興味を持って分けて欲しいという話があるので、採算がとれるような値段で出していく。専門職については、道総研にいた支場長がプロでサクラマスなどをやっていた。話によるとニジマスはサクラマスよりかなり丈夫と聞いている。施設は老朽化しているが、水槽も水もしっかりしていて、その辺は問題ないと思う。増築も考えている。

## 6 その他

**【阿部委員】** 平成20年に老人保健法が改正されて、特定健診という制度ができた。この特定健診というのは、国民健康保険に加入している40歳から74歳の方に受診していただくというもの。八雲町の今月の広報では特定健診の受診率が12%となっている。令和元年度は全国ワースト2位、令和2年度は全道ワースト2位だった。国民健康保険会計を見ると、入院内の費用が全国平均や全道平均より上回っている。受診を我慢して、にっちもさっちもいなくなると、受診したらあなたは入院ですよという風になっている。特定健診の検診率が極めて低いことがそうした事例を悪化させているということになるのではないかと。21年からの統計を見ると八雲町では20%を超えた試しがないが、30%を下回ると国の交付金が減額される。自分の体は自分で守るから良いんだと言いつつも、一方で、入院費用が高まって、健康保険財政を圧迫し、我々国民健康保険加入者の高負担となる。是非、この問題をもう少し真剣に取り組んでいただきたい。一次予防には健康増進や疾病の予防、二次予防としては早期発見、早期治療ということをもっと強く町が旗振りをして、町民が健康に生活できることを努めていただきたい。あくまでもこの機会を借りて、現状認識をしていただきたいのと、問題は極めて重く深い問題だということをお願いしたい。広報のみなら

ず、様々な形で啓蒙宣伝していただきたい。

**【加藤住民生活課長】** まず、阿部委員ご指摘の通り、令和元年度においては残念なことに全国ワースト2位という順位。順位付けに意味があるかという議論もあるが、順位としてはワースト2位。令和2年度の数値も先般公表されて、順位で言うと少し上がってワースト12位。2年度はコロナ禍で特定健診受診機会の一つとなっている住民健診についても中止せざるを得ないという状況もあり、順位的には上がっているが、受診率は12.4%となっている。高止まりしていた市町村においても受診率は落ちており、コロナ禍の状況が如実に出ている。令和3年度の速報値は、年末ないし年明けに全国の順位も公表されるが、22.5%まで回復した。町としては特定健診受診率を上げることが目的ではなく、町民が早く病気に気付いて、早期治療をしていくことが真の目的。国はこの数値において、加算もしくはペナルティといった様々な財政措置を絡めてきていて、八雲町においても総体では受診率においてマイナスのペナルティ的な要素も加味されている。受診率向上対策については受診勧奨通知、保健師からの電話連絡、特定健診を受けなくても個別の医療機関を受診している方が相当数いて、病院からのデータ提供をもって特定健診受診とみなすことができるが、個人情報なので、皆さんから同意書を貰わなければならない。データ提供の干渉だとか、色々なアプローチをした結果、22.5%まで来たと考えている。昨年度住民健診等を十分な体制ではやれていないので、今年度、コロナ禍前まで戻した中で検診を充実させていく取り組みを夏から始めるので、更なる上澄みが期待できる。町としても最重要課題として取り組んでいるところ。特定健診の低さが入院患者の医療費の増大に繋がっているというのは少なからずあろうかと思うが、八雲町の特性として総合病院があるということ、熊石国保病院という入院を備えた病院があるということ。移転してしまったが国立病院に国保加入者がかなりの数いて、入院費は他の町と比べて高くなっていたと思う。国立病院は移転したが、当分の間は八雲町で見なければならないという国保上の制度があって今現在も入院費は高い状況は続いている。今、北海道が医療保険者として全道統一になって、高額な医療費に伴う一市町村の財政的な負担は均一化されていく。この間も色々な取り組みをしているが、どうしても受診とデータ提供を勧奨していくしかないので、粘り強く機会ある毎に訴えかけていきたいし、機運が町民の皆様に盛り上がることを作っていかなければならない。国保は低いが、いわゆる社会保険においては7割近い受診率。職場における健康診断が役割を果たしている。個人事業主や高齢者が加入者の多くを占める国民健康保険においても受診率の向上を図っていかなければならないと考えている。

**【阿部委員】** 道内に60%を超えている市町村が9市町村あるので、どのような取り組みをしているか調べることも必要かと思う。

**【岩村町長】** 検討する。

**【阿部委員】** 皆で考えるべきことだと思う。

## 7 閉会